グリム童話

子どもに聞かせてよいか？

野村泫
NOMURA HIROSHI

CHIKUMA LIBRARY

ちくまライブラリー 23

野村 泫

グリム童話

子どもに聞かせてよいか？

ちくまライブラリー 23

著者 **野村 泫**のむらひろし

1925年生まれ。京都大学文学部ドイツ文学科卒業。
現在、東京外国語大学名誉教授。ドイツ文学専攻。
リルケやカフカのような狭い意味の文学ばかりでなく、口承文芸や児童文学を含めた広い意味のドイツの文学を研究の対象としている。
著書に『昔話と文学』(白水社)がある。

グリム童話——子どもに聞かせてよいか?

ちくまライブラリー 23

1989年3月30日初版第1刷発行
1989年7月10日初版第5刷発行
著者／野村 泫
発行者／関根栄郷
発行所／株式会社 筑摩書房
東京都台東区蔵前2-6-4 郵便番号111
電話 東京5687-2680(営業) 5687-2670(編集) 振替東京6-4123
印刷／明和印刷 製本／積信堂 カバー・表紙印刷／京美印刷
ブックデザイン／渡辺千尋+Kintaro-gumi

© NOMURA HIROSHI 1989 Printed in Japan
ISBN4-480-05123-6
乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが小社読者係宛に御送付下さい。
送料小社負担にてお取替致します。

グリム童話

目次

まえがき 1

i グリム童話は残酷である 3

はじめに

a 文学の原型である 14

パロディー／昔話の型／昔話の構造

本当らしくない書き方／昔話の文体

b 無意識の世界を描いたものである 47
フロイトとユング／子を殺す母／母と娘
c 歴史的事実を反映している 60
ままはは・子捨て／人食い／むごい罰
ii グリム童話は封建的である 77
子どもは何をしているか／親の期待
人々の暮し／昔話と笑話
現実からの逃避か現実の変革か
大人のためのメルヘンから子どものためのメルヘンへ
メルヘンの新しい受容
d 未来への展望を開く 113
昔話と伝説／自由への努力をあらわす
未来に目をむける
iii グリム童話はナチスに通ずる 137

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

強制収容所はグリム童話が育てた
グレーテルはゲルマンなでしこの鑑
グリム兄弟の時代／人々の心にドイツを呼び覚ます
e フランスから来た 155
グリムに童話を語った人たち
生粋のドイツの話の崩壊／黒パンの味
iv グリム童話は非科学的である 173
雪の中のいちご
f モチーフは入れ替わる 181
昔話はまとまった全体である
v グリム童話は総合的である 187
あこがれとあきらめ／自立と随順／可能性の統合
あとがき 207

まえがき

「グリム童話には残酷なところがあるので、そのまま子どもに聞かせてよいものかどうか」といった疑問を、わたくしはたびたびお母さん方や、児童図書館の方々から耳にしたことがあります。そのほかにも、グリム童話には「封建的なところがある」とか、「ナチスをあおり立てた」とか、「非科学的だ」とか、子どもに聞かせないほうがよいと思われる要素がいろいろとあります。ところがその一方で、子どもたちはほかのどんな話よりもグリム童話をいちばん喜んで聞く、という事実があります。それは、「グリム童話が文学の原型だからだ」と文芸学者は言います。心理学者は、「グリム童話が子どもの心の波長にぴったり合っているからだ」と言います。そうした相反する意見を手掛かりにして、「グリム童話とは何か」ということを考えてみたのがこの本です。

i、ii、iii、ivと、ローマ数字の小文字で示した章には、グリム童話に対する否定的な意見がまとめてあります。それに対して、a、b、c、d、e、fと、ローマ字の小文字で示した部分には、肯定的な意見をまとめてあります。そしてそれが、ローマ数字で示されたそれぞれの章に対する反論になっています。たとえば、a「文学の原型である」、b「無意識の世界を描いたものである」、c「歴史的事実を反映している」というのは、i「グリム童話は残酷である」への反論です。そして、最後のv「グリム童話は総合的である」の章に、「グリム童話はやっぱり子どもに聞かせたほうがよい」というわたくしの考えをまとめてあります。なお、読みやすいように、それぞれの章に小見出しをつけました。

グリム童話の引用について申し添えますと、グリム童話の本文をそのまま引用したところは、太字の活字で書いてあります。細字の活字で書いてあるところは、話の中味をわたくしが要約したところです。

i　グリム童話は残酷である

はじめに

グリムの『童話集』にこういう話があります。

西フリースラントにある、フラーネカーという町で、あるとき子どもたちが遊んでいました。五、六歳の男の子と女の子たちでした。そのうち、ひとりの男の子が肉屋になり、もうひとりの男の子がコックになり、また別の男の子が豚になるということになりました。女の子は、ひとりがコックになり、もうひとりがコックの手伝いをやることになりました。手伝いは、ソーセージが作れるように、豚の血をうつわに受けることになりました。さて肉屋は、打ち合わせたとおり、豚によって行き、そ

の子を引き倒して、喉を切り開きました。するとコックの手伝いが、血をうつわに受けました。ちょうどそのとき通りかかった、市の参事会員がこのひどい有様を見て、肉屋の子をその場から市長の家へ連れていきました。市長は参事会員をすぐに全員呼び集めました。どうしたらよいか、みんなで知恵をしぼりましたが、良い考えは浮かびませんでした。というのは、子どもが無邪気な気持でやった、ということが分かっていたからです。中に賢い年寄りがいて、よい案を出しました。「裁判長は、片方の手に真っ赤なりんごを持ち、もう一方の手に金貨を持ちなさい。それから子どもを呼んで、両手をいっしょにその子のほうに差し出してごらん。りんごを取ったら、無罪とするが、金貨を取ったら、死刑にするというのはどうだろう」。その通りやってみると、子どもはにこにこしながらりんごを取ったので、無罪と認められ、なんの罰も受けませんでした。

（「子どもたちが屠殺ごっこをした話」KHM 22a）*

これは一八一二年に出た、『グリム童話集』（初版）の第一巻に載っている話ですが、「こんな

*――KHMというのは、『グリム童話集』のドイツ語名、Kinder- und Hausmärchenを略したものです。番号は一八五七年に出た第七版の番号を指しています。グリムの話に言及するときには、これを挙げるのが慣例になっています。この本では、原則として話が初めて出てきたところにだけ、この番号を添えることにします。

グリム挿し絵図書館

1――この銅版画は，1819年に出た，『グリム童話集』第2版の巻頭を飾った絵で，図柄は「**兄と妹**」(KHM 11) に基づいています。本文，60ページを見てください。この絵を描いた，**ルートヴィヒ・グリム** Ludwig Grimm (1790―1862) は，グリム兄弟の末弟で，のちにカッセルの美術学校の教授になりました。肖像画が専門で，昔話（メルヘン）の挿し絵は，あまり描いていません。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

残酷な話は子どもに聞かせられない」と思ったお母さんが、その頃すでにいました。グリム兄弟の先輩で、グリムよりもさきに民謡や民話を集めていて、グリムに『童話集』の出版社の世話をしたアヒム・フォン・アルニムという人が、『童話集』が出てから間もなく、その母親の話を引用して、「どうして、こんな子ども向きでない話を〝子どもと家庭のための童話集〟というような本に入れたのか」と言って、グリムをせめています（一八一三年一月〔九日〕の手紙）。

このときから、「残酷な話は子どもに聞かせないほうがよいのではないか」、「残酷な話は子どもの心をすませるのではないか」、「残酷な話を聞くと子どもが真似をするのではないか」といったような、今もなお続いている、昔話の残酷性に関する議論が始まりました。

アルニムの手紙にたいして、弟のヴィルヘルム・グリムは、「この話は、幼いとき母から聞いたことがあります。そのせいで、私は遊ぶときとても気をつけるようになりました」と答えています（一八一三年一月二十八日付の手紙）。

兄のヤーコプ・グリムはもっと理論的で、「子どものためだけの読み物」という考えそのものを否定しています。「子どもは、昔から家庭の一員です。全体としての家庭から子どもを切り離して、一つの部屋に閉じ込めるようなことは、してはいけません。そもそもこれらの〝子どものためのメルヘン〟は、子どものために考え出され、作り出されたものでしょうか。私はそうは思

いません。私たちに啓示され、私たちが受け継いできた教えや指図は、老いも若きも受け入れることができます」。「子どもにひどい話を聞かせると、子どもが真似て悪いことをする恐れがあるというなら、子どもの目に目隠しをして、悪い真似をしそうなものはなにも見えないように、一日中見張っているよりほかないでしょう。でも、そんな心配はいりません。子どもの人間的なセンスが、そんな猿真似をさせるわけがありません」（同じ日付の手紙）。つまりヤーコプは、子どもの読み物というのは、現実の暗い面も含んだ、〝きれいに掃除されてない〟ものがよい、という立場にたっているわけです。ですから、「子どもは誰でもこの本の話をみんな読んでよい」とはっきり言っています。

しかし、この理論的な考えは、実行にはうつされませんでした。グリムは、一八一九年に『童話集』の第二版を出すとき、この話を除いています。現実の生活ではやはり、「大人は子どもに気を配ってやらなくてはならない」という教育的な立場に立ったのでしょう。

その後『グリム童話集』は、第三版が一八三七年に、第四版が一八四〇年に、第五版が一八四三年に、第六版が一八五〇年に、第七版が一八五七年に出ています。この第七版が、兄弟が生きているうちに出た、最後の版です。日本語の翻訳は、ほとんど全てがこの第七版に基づいています。グリム（主としてヴィルヘルム）は版を重ねていくうちに、話を入れ替えたり、表現を変え

たりして、『童話集』にうんと手を入れています。概して言えば、後の版になればなるほど、教育的な立場がはっきりと打ち出されてきています。ですから、後の版になるほど残酷な話は減っているだろうと考えられますが、どうしてどうして、第七版にも残酷だなと思われるような話はまだたくさん残っています。

たとえば、子どもたちにたいへん人気のある「ヘンゼルとグレーテル」（KHM 15）にも、「子を捨てる」「人を食う」「人を焼き殺す」といったようなことが出てきます。

大きな森の外に、貧しい木こりが女房と二人の子どもと暮していました。男の子をヘンゼルといい、女の子をグレーテルといいました。木こりには食べるものもろくにありませんでした。あるとき、この国に大きな飢饉がおこり、父親はもう毎日のパンを手に入れることさえできなくなりました。ある晩、木こりが寝床のなかであれこれ考えていると眠れなくなり、ため息をついて女房に言いました。

「おれたちはどうなるんだろうなあ。夫婦の食う物さえないというのに、どうやって子どもたちを育てていったらいいんだろう」。「そのことだがねえ」と女房が言いました。「明日の朝早く、子どもたちを森の奥へ連れていこうよ。そこで火を起こして、パンを一切れずつやってから、あたしたちは仕事に出かけて、子どもたちを置き去りにしてしまおう。子どもたちは家へ帰る道が分からないから、

グリム挿し絵図書館

2――この絵は，「**ヘンゼルとグレーテル**」(KHM 15) の始めの場面です。本文，8ページを見てください。絵を描いた**テーオドア・ホーゼマン** Theodor Hosemann (1807―1875) は，19世紀前半に活躍した名高い挿し絵画家です。「赤ずきん」「白雪姫」「灰かぶり」など昔話を，たくさん絵本に作っています。ホーゼマンは，昔話の挿し絵を描くときも，写実を重んじ，日常の世界を背景にして，話の核心を端的に描いています。

それで厄介払いができるよ」。「とんでもない、そんなことができるものか」と亭主は言いました。

けれども、女房があまりうるさく言い立てるものですから、とうとう承知してしまいました。ヘンゼルとグレーテルは、おなかがすいて眠れなかったので、まま母が父親に言ったことを、みんな聞いてしまいました。グレーテルが涙をぽろぽろこぼしてヘンゼルに言いました。「あたしたち、もうだめね」。「だいじょうぶだよ。ぼくが、きっとなんとかするから」とヘンゼルはグレーテルを慰めました。次の日、ヘンゼルとグレーテルは森に捨てられますが、ヘンゼルの機転で無事に家へ戻ることができます。二度目に捨てられたときも、どうにか家に帰り着くことができましたが、三度目に捨てられたときには、道を見つけることができなくて、森の奥へ迷い込んでしまいます。二人は森のなかをさ迷っているうちに、お菓子の家を見つけて大喜びしますが、それは実は魔女の家でした。魔女は二人を捕まえると、ヘンゼルは太らせてから食うことにして檻に入れ、グレーテルは女中がわりにこき使います。ある日、魔女はグレーテルに「パン焼き釜の火加減を見ろ」と言いつけました。グレーテルを焼いて食ってしまおう、と思ったのです。ところが、グレーテルのほうが一枚うわ手で、「やり方が分からないから、お手本を見せてください」といって、逆に魔女をパン焼き釜の中へ突き落としてしまいます。魔女をやっつけると、グレーテルはすぐにヘンゼルを檻から助けだしました。それから二人は、魔女の家で見つけた宝石を持ち、森を抜けて家へ帰りました。

「十二人の兄弟」（KHM 9）では、娘が生れたら殺す、といって十二人の男の子が父親におどされています。

昔あるところに、王様とおきさき様がおりました。二人は仲良くしあわせに暮していました。二人には子どもが十二人ありましたが、男の子ばかりでした。さてあるとき、王様がおきさきに向かって言いました。「今度生れてくる十三番目の子が女の子だったら、十二人の男の子は殺してしまおう。そうすれば女の子の財産がふえるし、この国がその子一人のものになるから」。そして本当に棺桶を十二個作らせました。棺桶にはかんなくずが詰めてあり、どれにも死人の枕が置いてありました。王様はその棺桶を部屋に入れさせ、鍵を掛けると、その鍵をきさきに渡して、「誰にも言ってはいけない」と命じました。

生れてきたのは、女の子でした。しかし男の子たちは、森へ逃れて助かります。女の子は大きくなってから、兄たちを探しに出かけます。そして烏になった兄たちを救うために、七年間口をきかない、という誓いをたてます。妹はやがてよその王様と結婚することになりますが、口もきか

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c